

# 平成 25 年度 事業報告

主任研究員 大田 浩右

## I. 保健医療の調査研究事業

外来通院中の患者さんの検査予約などの流れを確実にすることを目的とし、バーコードを利用して通院患者情報システムの開発を行った。

## II. 市民健康啓発事業

- ① 大田浩右著書『ふえる脳過敏症 やっと解放された 36 人なまの声』を平成 25 年 11 月 23 日に出版した。脳過敏症とは痛み・めまい・シビレなどに対し、脳の神経が過敏になった状態で原因不明の頭痛・めまい・耳鳴り・不眠・疼痛などを引き起こす。症状が変容化しているため、原因を特定し適切な治療をうけることが難しい場合があり、今回の著書では脳過敏症の症状や原因、治療法などわかりやすく解説している。著者が実際に治療に当たった 36 のケースと症状、患者さんの生の声を紹介している。書籍を読まれた方が、自分の症状に似ているとのことで明神館脳神経外科へ問合せや受診されることがあり、反響を得ている。
- ② 当財団理事であり、脳神経センター大田記念病院 脳神経外科部長大田慎三医師による『手術現場を DVD で体験 脳動脈瘤コイリング技術』DVD 付き書籍を出版した。今後、関係機関への謹呈や関係学会、医学専門書店での広報および販売を行う予定である。
- ③ 平成 25 年 11 月 23 日『ふえる脳過敏症』出版に際し、無料の電話相談「脳過敏症ホットライン」を開設した。慢性の痛み、睡眠などで悩まれている方々を対象に、専門ナースが相談に応じる。相談内容をドクターに確認し、その意見を相談者へフィードバック、診察希望の場合は明神館脳神経外科を予約頂いている。書籍販売やホームページへの掲載の他に山陽新聞、中国新聞での広報を行っており、症状に心当たりのある方々から多く相談が寄せられている。診察をされる方には、事前に問診を行っているため待ち時間の短縮が可能となる。また、ドクターにおいても事前情報で治療方針を立てやすいという利点がある。
- ④ 平成 25 年 11 月 23 日、福山ニューキャッスルホテルにて、市民公開講座 第 25 回虹の会を開催、約 500 名の参加をいただいた。般若心経、大災害時の備えなどをテーマに講演を行った。講演内で脳過敏症の書籍出版とホットライン開設の紹介を行い、会場で販売した書籍の売り上げのほぼ全てを昨年災害のあったフィリピンのタクロバンへ寄付した。
- ⑤ 災害時の非常用持ち出しリュック『こ助くん』を企画制作した。災害時を想定し、議論や調査を行いながら、リュックに入れる防災グッズ 27 点を選出、販売価格 9,998 円、重量 4.6 kg。広報活動を行い、関係者や老人大学等より購入希望をいただき販売している。

### III. 保健医療・福祉の顕彰事業

平成 26 年 2 月 28 日、第 2 回澁谷昇賞授賞式を行った。今年度は、「澁谷昇 社会功労賞」として、株式会社菊屋代表取締役社長 能宗孝氏への授与を決定、授賞式と同時にプレス発表を行った。オリジナルの記念品を制作し、受賞者へ贈呈した。

### IV. その他

昨年度より事業目的となった「大田ふるさと資料館/Oota 蓄音機ミュージアム」の管理運営について、歴史を物語る数々の古い農具民具など貴重な資料の管理保存に務め、浦安小学校生徒達の見学やテレビ番組での紹介により、大切な資料を幅広く知っていただくことができた。また、第二日曜日の開館日にピアノ、三味線など色々なコンサートを開催、近隣の方々を含め来館いただき、好評を得た。